

～はしっコア～



信越県境 地域づくり交流会

まなぶ・つながる・はじまる

第10回 信越県境地域づくり交流会

長野県と新潟県の県境をはさむエリアに着目し、広域・異業種により様々な地域づくりに関する学びと交流を深めるイベントです。

日時

令和2年2月29日(土) 10:00~19:00

会場

高田公園オーレンプラザ (新潟県上越市本城町8-1)

北陸新幹線 上越妙高駅から車で10分

えちごトキめき鉄道 高田駅から徒歩25分

上信越自動車道「上越高田IC」または北陸自動車道「上越IC」から15分

参加費

無料 (情報交換会のみ実費)

プログラム

第1部

地域研究グループ「はしっコラボ」研究発表会 10:00~12:00

(9:30 受付開始)

この地域ならではの魅力の発掘や活用方法について考える地域研究グループ「はしっコラボ」により、これまでの研究活動や今後の研究企画について発表し、意見交換します。



第2部

シンポジウム「地域づくりとプラットフォーム 13:15~17:15

～ イノベーションを起こす場づくりとは ～ (12:45 受付開始)

13:30 特別講演 金井 政明さん (株式会社良品計画 代表取締役会長)

昨年、日本イノベーター大賞を受賞された良品計画の金井会長から、同社における企業経営の考え方などについてお話いただき、地域経営・地域づくりにおけるイノベーションについて考える機会とします。



14:45 トークセッション

組織や地域の課題が山積する現代社会では、人々が垣根を越えて出会い、未来志向の対話を育み、小さくとも新たな価値を生み出していく、そんな働き方や暮らし方が注目されています。このようなイノベーションを生み出すためには、どんな場(プラットフォーム)づくりが必要となるのでしょうか。

近年増加するコワーキングスペース、フューチャーセンター、イノベーションセンター、リビングラボ、サードプレイスなどの様々な機能に注目し、他の地域での取組から学ぶ機会とします。



<パネリスト>

田口 真司さん (3×3Lab future、東京都千代田区)

三枝 大祐さん (シビックイノベーション拠点スナバ、長野県塩尻市)

小倉 摩美さん (Startup Garage/Trial Village、愛知県豊橋市)

<コメンテーター>

榎引 素夫さん (青森大学社会学部教授)

<コーディネーター>

戸田 敏行さん (愛知大学三遠南信地域連携研究センター長)



第3部

情報交換会

17:30~19:00

立食形式により参加者同士の交流を深めます。(参加費:2,000円/定員50名)

お申し込み

信越県境地域づくり交流会ホームページ の申込フォームをご利用ください。

<https://www.hashicore-shinetsu.jp/app>



お問合せ

上越市創造行政研究所

☎ 025-526-3490 (平日 8:30~17:15)

✉ shinetsu-kenkyo@city.joetsu.lg.jp

創造行政研究所は、上越市役所内に設置された自治体シンクタンクです。

【主催】信越県境地域づくり交流会実行委員会、上越市創造行政研究所 【共催】(一社)雪国観光圏、信越9市町村広域観光連携会議(信越自然郷)

【後援】新潟県、新潟県上越地域振興局、地域づくりネットワーク長野県協議会、(公財)八十二文化財団、愛知大学三遠南信地域連携研究センター

登壇者紹介

< 特別講演 >



金井 政明さん

株式会社良品計画 代表取締役会長

1957年生まれ、長野県出身。西友ストアー長野（現合同会社西友）を経て1993年良品計画入社。生活雑貨部長として長い間、売上の柱となる生活雑貨を牽引し良品計画の成長を支える。その後、常務取締役営業本部長として良品計画の構造改革に取り組む。2008年2月代表取締役社長、2015年5月代表取締役会長に就任、現在に至る。西友時代より「無印良品」に関わり、一貫して営業、商品分野を歩み、良品計画グループ全体の企業価値向上に取り組む。

< 会社紹介 >

1980年12月、株式会社西友のプライベートブランドとして40品目でデビューした「無印良品」は、「素材の選択」「工程の点検」「包装の簡略化」の3つの視点で実質本位のものづくりを続けています。現在では鉛筆から家まで約7,000品目の商品に広がっており、2019年11月までに世界31の国・地域で約960店舗を展開しています。

また、ものづくりにとどまらず、飲食事業「Café & Meal MUJI」「MUJI Diner」の運営や、空港・駅といった公共施設のデザイン、里山の保全活動や廃校の活用などにも取り組んでいます。



< トークセッション >



田口 真司さん（東京都千代田区）

3×3Lab future(さんさんらぼフューチャー)

1972年生まれ、岐阜県出身。横浜国立大学工学部電子工学科卒業。2010年3月にワールドカフェによる対話会を開始。企業で働く人や学生、NPO、主婦などあらゆる属性の人たちを集め、毎月テーマを変えたイベントを主催。2011年12月、「企業間フューチャーセンター有限責任事業組合(LLP)」を設立。未来の社会について対話し、新たな価値創造に向けた活動を実施。2013年2月から現職。

丸の内をオープンイノベーションの街にすべく、3×3Lab Futureの運営業務を通じ、社会的ビジネス創出に向け活動中。

< 職場紹介 >

3×3Lab Future(さんさんらぼフューチャー)は、「大丸有サステイナブルビジョン」の実現に向け、より良いまちづくりや社会課題の解決を目指す「エコツェリア協会」が運営しています。3×3Lab Futureは、サステイナビリティの3要素「経済」「社会」「環境」がギアのごとく噛み合い、さらに自宅でも会社でもない第3の場所「サードプレイス」として業種業態の垣根を越えた交流・活動拠点として、次世代のサステイナブルな社会の実現に寄与する場所を意味しています。

日本を牽引するオフィス街である大丸有(大手町・丸の内・有楽町)地区には、多くの記憶や知識情報が集積し、日本の交通のハブとしてのインフラが存在します。これらの資源を活かしながら創造性の高いコミュニティを形成し、未来につなぐビジネスを創発していきます。



三枝 大祐さん（長野県塩尻市）

シビックイノベーション拠点スナバ

1989年生まれ、福岡県出身。名古屋生まれ、三重、埼玉、神戸、町田を経て福岡へ。京都大学経済学部卒業後、AGC株式会社入社。自動車ガラスの営業としてダイハツ、マツダなどを担当。新規事業のマツダ案件においては営業所を新設し、単身で赴任。その後、2017年4月に塩尻市職員として転職、移住。市役所入庁後はMICHIKARA等の官民連携事業等に従事。「スナバ」には企画段階からの運営チームとして携わり、持続可能な経営モデルを構築中。趣味は登山と旅とネパール。現在興味のあることは狩猟。

< 職場紹介 >

スナバは、「全国の社会課題や地域課題を解決するような社会的効果と持続可能性が両立する事業が、塩尻やスナバを通して生み出されていく」世界の実現を目指します。それらを実現するのは、決して特別なイノベーターではなく、課題に対して当事者意識を持ち自ら解決したいという「想いの火種を持った市民」。スナバにはそのような市民をメンバーに迎え入れ、必要なリソースや学びを提供し、事業が一步でも前に進むように全力で伴走することをミッションとします。

同じ想いを持ったメンバー同士が互いに切磋琢磨できるコワーキング機能、事業確立に必要な成長・変化を習得できるアクセラレーター機能、外部連携を通して地域内にはない資源に接続できるリビングラボ機能を提供し、ビジョンの実現を目指します。



小倉 摩美さん（愛知県豊橋市）

Startup Garage/Trial Village

1989年生まれ。北海道出身、豊橋市在住。大学卒業後、結婚に伴い愛知県豊橋市へ移住し、業務委託としてBtoB向け商材のBtoC向けオンラインショップ展開やSNSプロモーションを担当する。出産後は個人でハンドメイド素材のオンラインショップを運営するかたわら、講師業や創業・新規事業支援、コワーキングスペース「Trial Village」ではイベント企画と広報を担当、「Startup Garage」ではコミュニティーマネージャーとして運営を統括している。好きなことは経営者の話を聞くこと、カバが好き。

< 職場紹介 >

Startup Garage(スタートアップガレージ)は、株式会社サイエンス・クリエイティブがローカルイノベーション創出を目指した豊橋イノベーションガーデン事業の一環で開設した無料のコワーキングスペースです。多様なメンターによる創業・新規事業の個別相談が受けられるのが特徴です。

Trial Village(トライアルビレッジ)は、2013年5月に個人オーナーが開設した東三河初のコワーキングスペースであり、豊橋駅から徒歩5分の立地、3DプリンタやVR機器があるのが特徴です。主にフリーランスやリモートワーカー、IT系の法人に利用されています。

